

# ぼんぼり山便り

2007年9月から「緑の募金」から助成を受け、「緑の募金公募事業」として森林整備活動に取り組んでいます

毎月第一土曜日、第三日曜日 10時～15時位に活動中です。

## 第33回定例活動の報告

(9月6日 第一土曜日)

・参加者 21名

### 【竹林整備】

・実際に竹林に入ると見ると、離れた外側から見て想像していた以上に竹が密生しているのに驚かされた。よい筍の収穫を得られるようにするには、傘を差して通れる位の間隔が望ましいというが、その域に達するには大変な作業だ。

・また、本来の竹林との境界付近に植えられた2年生以上かと思われるヒノキ？スギ？は全てとっていいほど立ち枯れており、竹林の手入れがなされなかったことが悔やまれる。ある時期を境に成長の早い竹に上空を覆われ太陽の光を奪われてしまったのが原因だろう。

・ここでも竹を伐る時間よりも、それを倒すことの方が時間がかかる。何故なら、密生している為にかかり木ならぬかかり竹となり、それにロープをかけて



数人で引く張って引き外して倒さねばならないからだ。ひよる長く成長した竹は上部にいくほど柔軟性があり葉が絡みあうと一層倒すのに手間取り、時にはロープをかけて後方に10m位引いていってやっと倒せる始末、息も上がる……。倒した竹を3〜4mの長さに伐って枝を落とし土留めになるように木や切り株根元に横に積み上げて一本の作業が終了する。今日一日で何本位伐ったのだろうか。70〜80本位、いやもっといったという声もあり。いずれにせよ次回も引き続き竹伐りの作業を行なうことに決定。

〔下段へつづく〕

### 【除伐班】

前回お休みしたこともあって、まずは始動までのおさらい。

・エンジンとオイルのチェック。「よし」。

さて燃料ポンプよし、そしてチョーク……とそこへ「待った」と師匠の声。

本日は真夏を思わせるただならぬ温度と湿気の熱帯日。このような日はチョークをかけるだけで試しても良いらしい。ハンドル握ってエンジンをかける。プロロロロほんとだ、エンジンかかった。

・先に行った皆が作業を始めている初作業エリアの竹林の少し手前で、ボサ刈りと除伐した後の、切り倒したままで片づけてない木の整理をすることになった。だいたい2〜3mで玉切りし、丸太を横並びに並べていく。

・さて次はみんなのいる竹林へ。密集している竹林の下部は、杉と竹が混在しており、杉は曲がり木だらけであった。そう、今まで除伐はすべて手鋸でやっていたので、チェーンソーのスピードと自分のスピードが合わない。それにそのあつという間のスピードに焦り、平衡感覚や、受け口、追いつきの感覚も狂い、頭の中が真っ白になった。特に受口の斜めに切っていく時は、直線に力が入ってないらしく、やたら止まってしまふ。それに、やっと切り終えたと思ったら、今度は受口の内側がガツタガタで、鈍角に切られてしまっている。

その都度師匠に修正してもらい、なんとか5本、片付けた。



### 【活動基地周り】

・今日は竹林エリア、初作業の日。ひとまずエリア見学の為に枯枝処分の火回り部隊を残し、みんな行っちゃった。

・エリア確認後、作業に入るメンバーを残し、さて、お

昼の準備をするぞ！と基地周りに戻る。道具が増えたり使い勝手が良くなってる。日々(会を重ねる毎に)進化しているんだなあ。

・火回り部隊に、火起こしをお願いして、野菜を切って、沸いた鍋に放り込む。いつもの事だけど、ここでも進化？を感じたことひとつ。野菜を放り込むのは、煮え難い順から。味噌を入れるのは、作業を終えた面々を迎える少し前、煮立たせない程度に……

って言ったのは、私じゃないよ、火回り部隊のメンバーだ。味見もしてくれるし、時間管理もしっかりしてるし、頼りになるなる。

・初参加のメンバーからは、「(味噌汁が)美味しい」なんて声も挙がり、やっぱり、うれしいもんだね。でもね、ダシとダシ入り味噌に騙されてるよお！

・午後からは、作業人数も増え、枯枝の処分等に勢を出す。作業終了時間までに燃え尽きる程度の量を配分し、またまた、時間通りに。燃えきるまで、手持ち無沙汰になるうであるう時間帯は、次回のために基地エリア近くまで枯枝を運んでおく

・これからは、気温も下がってくるし、火回り部隊の活動も、楽になるね。暑さが無くなるから熱さも幾分減る??かな。

文……ホームページより



# ぼんぼり山便り

2007年9月から「緑の募金」から助成を受け、「緑の募金公募事業」として森林整備活動に取り組んでいます

<http://members2jcom.home.ne.jp/bonbori/> 活動報告の詳細等は、ホームページにて...

## 第34回定例活動の報告

(9月20日 第三日曜日)

・参加者 20名

・朝から雨が心配な曇り空。予報では午後から雨降りとのこと。ただ山の天気は平地と同じで無いことは何回も体験済み。電車が五日市に近づくにしたがって雲の厚さが増し山には雨雲がかかり、今にも降る出しそうな様子、  
せめて午前中くらいはもってくれ...

今回もインターネットで調べ当会を選んだ若い男性が参加する。  
このところ嬉しいことに続けて若い人達の参加があるのが嬉しい。願わくは継続して参加して欲しい



・今日はボサ刈り班は一点突破で尾根へ到達を目指し、除伐班は中ほどで曲がり木などの除伐を続け、剪定枝処理班はその焼却を行なうほか、今朝、いつも集合場所として使わせて頂いているお宅の方から依頼を受けた2箇所の柚子畑の草刈などの活動に取組む。

【下段へつづく】

## 【ボサ刈班】

斜面がきつくなった樺の木が多く茂っている近が作業開始地点。そこへたどり着いた仲間からいきなり「マムシがいる」との声がかかる。「こんな所にもいるのか」と近づいて見ると、確かにいた。この山中では初めて見た二股に分かれた木の根元に...、人が近づいても動こうとしない。仲間が棒でつつくとようやく木から離れ地面にとぐろを巻いたまま逃げようとしめない。更に棒でつついてやるとようやくのろのろと下のほうへ移動していった。それにしても動きが鈍い?、冬眠には早い気がするし、ひよつとすると獲物がとれず腹ペコか? いずれにせよ作業にあたっては注意しましょう。



・尾根まで一点突破を目指して作業を始めたが倒木も多く、太いものはチェーンソーの応援を受けて片付ける。玉切された木を木の根元まで運んで纏め土留めを作ったり、ボサ刈したものも長すぎるものは半分に切ったり、これらの処理に意外と時間がかかる。時々小雨がぱらつく森の中はまるで夕方のような暗さ。こんな中で黙々と作業を続けるが中々尾根までは到達しない。見上げると視界にはいる空が広がっていることは間違いないのだがとにし山を下りる。尾根への到達は次回

【下段へつづく】

・午後の作業にはいつの間もなく雨足が強まり安全性を考慮、作業を打ち切ることにし山を下りる。尾根への到達は次回の楽しみにして。

## 【草刈班】

・用意された刈払機2台を持って4人が出勤。依頼を受けてこの6月に一度草刈をした畑だが雑草の伸びは速く2度目の依頼となったもの。刈払機という機械力を使っても草刈には結構時間がかかる。刈りっぱなしというわけにはいかない。かき集めて数箇所に纏めたり...、午前中に一枚の畑を終え、午後にもう一枚を刈ことに。

・午後の作業を始めて間もなく雨足が強まり山作業班は作業を中止し、山を下りピニールハウスの中で帰る仕度を始めたが、畑班は中々帰ってこない。雨だからといって途中で止めたら次は1ヶ月先、ずっと継続される山作業と違って、バッチ作業の草刈作業は止めるわけにはいかない...。いつもの定刻近くになって無事に任務を終えた仲間が戻って来た。ご苦労さま。熱いお茶と美味しい漬物をいただいて帰りましょう。



## 【特集：「マムシについて」】

<<http://www5a.biglobe.ne.jp/~outfocus/eurail/pilgrim/no21-no22-way.htm>>

文・・・ホームページより